

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで (単位:円)

Table with 4 columns: 勘定科目, 本年度決算額, 前年度決算額, 増減. Rows include 経常収益, 経常費用, and 正味財産期末残高.

ふる里自慢

宮城県支部

仙台・青葉まつり

シンガーソングライターのさとう宗幸さんが熱唱し、大ヒットした「青葉城恋歌」の一節で歌われております「七夕まつり」をはじめ、全国に名を轟かせています歴史・文化・観光など仙台には数多くありますが、「光のページェント」とともに「仙台三大まつり」のひとつでもあります「仙台・青葉まつり」をご紹介します。



藩政時代の明暦元年(一六五五年)に仙台東照宮の例祭「仙台祭」として始まり、藩主が在仙の年は、最大で七〇基もの山鉦が城下を練り歩いたともいわれ、仙台藩あげての領内最大の祭りでした。明治時代になり、伊達政宗公の命日に青葉神社の祭礼として「青葉まつり」が行われるようになり、その後、昭和四十年代に入

受賞者の喜びの声

●●春季表彰●●

善行表彰を受賞して

京都府京都市 小川 雄暉

この度は、令和二年度春季善行表彰を賜り、心から感謝申し上げます。私は、日本ボーイスカウト京都連盟ガールズ派遣団の一員として、西アフリカ・ガーナ共和国で、アフリカに蔓延している熱帯病の一種「ブルリリ潰瘍」に苦しむ人々や、治療を支える医療スタッフに対して、医療物資などを支援しています。



た、将来を担う小学生に對して、文房具を寄付したり、啓発ポスターを学校に掲示したりもしています。日本では、ボーイスカウト全国大会に参加して、この病気に多くの子どもたちが感染して困っていることを周知しています。私は、この派遣に第一回から継続して関わり、派遣団の中核を担っています。

善行表彰を受賞して

東京都荒川区 山戸安紗美

この度は、令和二年度春季善行表彰を賜り心よ

また、二〇一九年一月二日(二〇二〇年一月)に開催されたオーストラリア派遣では、派遣中に大規模な森林火災が発生してしまいました。現地スカウトと共に森林火災について考え、日本に帰国後も支援を行っています。今後は、支援を継続するだけでなく、現地のニーズに合わせた新たな支援にも取り組むたいと考えております。

り感謝申し上げます。私は、小学生の時に荒川区で行われている「チャレンジャー共和国」に姉が先に参加していたので、興味があわき、いっしょに参加したのが、この活動を始めるきっかけとなりました。キャンプや子供会大会など、参加者として楽しく学びのある活動を行いました。高校生となりシニアリーダー部に入室し、参加者をまとめる立場になり、まとめる大変さと子供たちと過ごす楽しさを経験しました。現在は、指導する側となりましたが、日々先輩たちから学び続けています。そして今ではキャンプなどの食糧担当を任されています。



メニューを考えたり、食糧の計算をしたり、不安な時は、自宅で試作したりもします。食糧を任されて私が感じた事は、子供たちが自身が協力して作った料理をおいしく食べてる時の笑顔や、おもしろいと言ってくれる事が嬉しくてますますやる気を感じています。

善行川柳

選者 東 逸平

○晴き世も 明日があるさ 夢つなごう

評/《晴き世も》は、《暗き世も》とした方が良いでしょう。コロナ禍で、本当に暗い世の中になりましたね。ただ《明日があるさ》でまとまりましたね。

○コロナ君 皆歸りたい 盆が来る

評/コロナ君、頼むよ！お盆には家族や親類の方のお墓参りをさせておくれよ。

○コロナでの 官給マスク いつ届く

評/首が痛くなるほど長く伸ばして待っていても、音沙汰無し。皆が自分たちで、ハンカチ等を裁断して作り、間に合った頃に大人用とも子供用とも分らない小さなマスクを貰った人達もいますね。待っていますよ！コロナ禍に挑んだ佳作。

○頑張ろう 外出自粛 解けるまで

評/ストレスが溜まりますね。梅雨がやってくる。真夏がやってくる。あああ！今月はこの作者もコロナ禍を題材に選びました。時事を直視すると脳が活性化しますよ。



の販売、グルメ屋台が建ち並び、家族連れや観光客も交じって大変な賑わいをみせております。また、中でも、粋な法被姿の学生・企業・町内会・各種団体による「すずめ踊り」の祭連が街中で華やかに舞い踊り観客の目を惹きつけてくれます。この「すずめ踊り」は、慶長八年(一六〇三年)仙台城新築移転の儀式を終えた宴席で、石工達が政宗公の面前に踊りに始まり披露した踊りに始まるといわれています。小気味よいテンポ、躍動感溢れる身振りが跳ね踊る姿、餌をついばむ雀の姿に似ていることや、伊達家の家紋「竹に雀」にちなんで「すずめ踊り」と呼ばれるようになりました。現在は、コンテスト(一般部門・中学生以下・高校生以上・各祭連代表などの部門)も開かれ、五〇〇〇人にも及ぶ老若男女の祭連が参加し、盛大に舞い踊ります。さらには、十一基の仙台山鉦(企業・団体により運行)が、商売繁盛、家内安全、無病息災などの願いを込め、提灯の明かりで照らされ街中を巡行する様は幻想的でもあります。長さ七メートル、高さ八メートル、重さ六トンもある山鉦を曳く威勢のいい掛け声と粋なお囃子、華やかな舞いが現れた時、社の都の時代絵巻は最高潮を迎えます。令和元年(二十五回)のまつりに、なんと観客数が、過去最多の九十七万人にも及びました。この十一基の山鉦も東日本大震災では甚大な被害を受けましたが、すべて修理を終え、まつりに登場しております。まさに、青葉まつりは、震災復興に